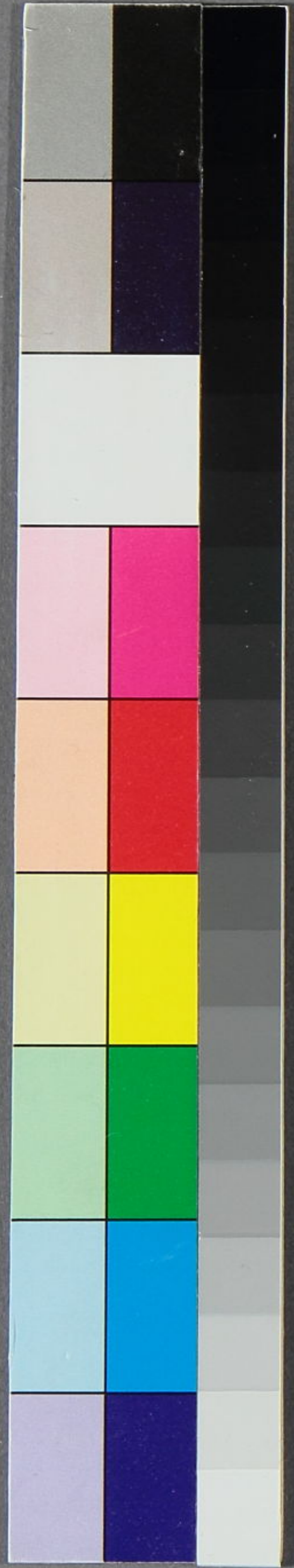


八代集抄

後拾遺歌

巻八

特別
イ 4
3163
104(28)





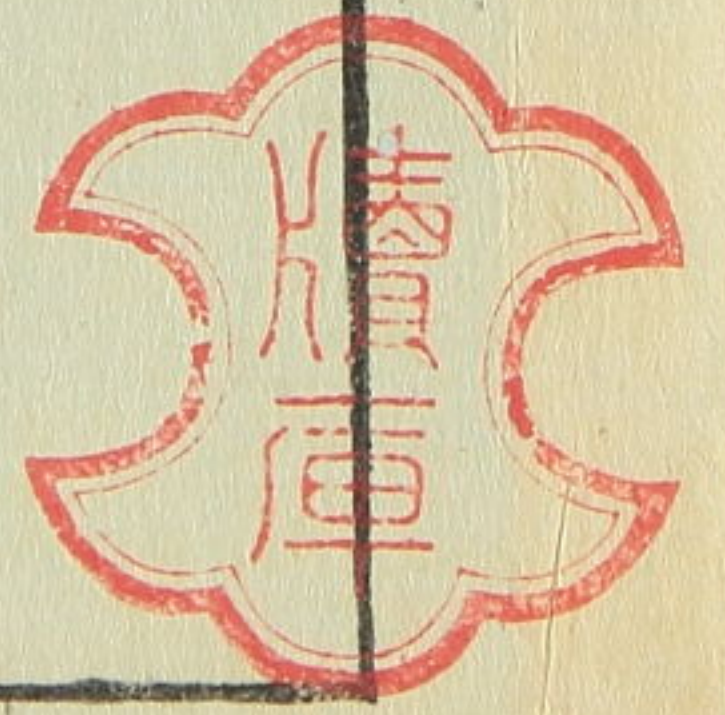
伊勢乃いつき
後一条院時乃女官
具平親王乃
清娘嬪子女王也
おやけ 後一条院乃
おのりあつ
天照大神の神勅を母
宮つりつり
あはれ 詔宣の神勅
を人よりあつたのまゝに

後拾遺和歌集第二十

雑六

神祇

長元四年六月十四日伊勢乃いつき
内裏よりあつりてあつるも俄に雨降
風吹くいつきあつる詔宣志く
祭主補親を召ておやけの侍
事とて侍り奉るはあつてよひ
といひあつるあつるあつるあつる
あつるあつるあつるあつるあつる



はつたきよさやうき
無き月よりうてま
さうの忍あふ
法皇乃心あつれ
世の塵垢乃忍
何と補親をか
ささるやうや
おちり父むまこすけら
頼基徳宣輔親
二代をよまふ
すくおちんか
皇大神

はつたきよさやうき
ちり乃さうりいほ
法和をまらる
おちり父むまこすけら
いさきまうすくおちん神
男よりとられて侍る
まらりて
とさうして侍る
おちり父むまこすけら
あくれつる

後七

伊勢物語より引
出玉乃ある人
とらるるも
おちり父むまこすけら
神祇乃心あつれ
世の塵垢乃忍
何と補親をか
ささるやうや
おちり父むまこすけら
頼基徳宣輔親
二代をよまふ
すくおちんか
皇大神

おちり父むまこすけら
玉ちるをうり
け舟の貴船乃明神乃
男乃
おちり父むまこすけら
ね宣旨
まを舟二
おちり父むまこすけら

志乃と乃とをよみか
白帶也祝神を深
くは事とててて
今よりいあや
わゆるは世に社を
は法座とてまつり
て我にまをさす

いかりの乃乃
青葉の三乃乃
瑞雲と神垣を
い編者乃この社

延喜式云 稻荷神社
三座下社大山祇中社倉
稻倉上社祖神
すみより乃招きか
神社造管より新志
きははまの招きか
らハハのま
あつとまを招きか
ねの神代の法をの
けりものま
うまのま
まのハ東極あり
時よりま
ちりやあつたの尾山

志乃と乃とをよみか
いひつ神をひらき乃野
今よりいあや
乃の予やこうや
け舟或人云世中
ハ舟累乃ハ今ま
いひつくちか
すまのま
編者よよ
古事記法師

後九二

いかりの乃乃玉
我乃まを神も
恒者乃ま
りる 山口重如
すみより乃招きか
あつとまのま
一桑院は
けりものま
まのハ東極あり
ちりやあつたの尾山

心明くし
 後二多院時より
 延久四年四月廿三日
 社形幸多を相所世八云
 内より年比乃法祭と
 て祇園日若より
 新音よりとそ也
 何きくけき日よりの
 明きき日とけき
 山乃くひらるるや
 やいあねと今つねの
 大井乃新音此時の本音
 と申すはしるるや
 延久三年
 正月廿六日祇園の音

りあうちとせ乃とくめりわ
 後二系院時よりけり日若社
 よ新音結るるは東能より
 ういおせしるるや
 大式実改從位資業
 何きくけき日若乃法神ミカド若りこめ
 山乃むいあるより代やん
 おまー河時祇園より新音結るる
 あつま何るるいよ
 結るる法る 菟原経衛
 延久三年

ふとやあつ祇園
 祇園行音を
 められははるるい
 まくく子年のね
 夏代よりとの
 大系野祭二月上日
 土月中子日あな
 事根源云出束信
 日若より上つ
 侍をいひり
 上つ神事なる
 上つ常念の四
 とく目のは
 何きくけき日よりの
 何きくけき日よりの

ふとやあつは乃とのある姫小松
 ようのよいよとあわ
 大系野祭乃上つ
 結るるは雪乃あ
 及く法結るる法
 こつとよあつ白雪のま
 神乃いり
 式部大補資業伊
 時彼乃と明神
 何きくけき日よりの

神心とくらんとり
 宵のまゆのよけを
 うしとあまのあまれ
 童夢抄云昔すまの
 玉乃有度淡子神女
 乃天よりりて舞しと
 うつてこの世をす
 り舞として東柱す
 る也愚業々女の祝子
 乃舞しと世のやと
 阿蘇社日本紀彙行天
 皇後淡子あまの
 阿蘇社彦阿蘇社媛
 乃二神阿蘇の
 乃二神阿蘇の

ね
 うしとあまのあまれ
 ありとん袖やん
 大武成章肥後
 阿蘇社彦阿蘇社媛
 なるよりの玉乃
 よふ人志
 阿蘇乃志くそく
 ゆけよう阿蘇
 八幡まつりてよ
 増基法師
 徳田法師

七四

阿蘇の志くそく神
 童夢抄云ゆけ
 うしとあまのあまれ
 奥後抄神あまの
 こと又あまのあまれ
 うしとあまのあまれ
 涌と分してうしと
 恒者乃松の志くそく
 松乃縁乃神は恒
 乃縁の足ゆき
 恒者乃社を八幡
 恒者を勧請し

うしとあまのあまれ
 神乃志くそく
 すまよりあまのあまれ
 連伸法師
 恒者乃松の志くそく
 子ありとん袖やん
 石清なるまつりて
 松乃本乃志くそく
 恒者乃社を
 八幡まつりて
 増基法師
 徳田法師

何れもさういふ者も
むねを乃石はあま
おせは若らうりり
とも松さ松さあがり
くもあしとさうと
おふともさういふ
おふりさういふ
私成然の心貴船
さういふ付く人を
わすれよあがり
人乃石成然
せめて心身安穩
は御成りま神
道をよめり
まことのまの音合

甘く待つる 諸人さうと
何れもさういふ者も
松さ松さあがり
貴布祢まらわて
はげ待つる 藤原時房
おふともさういふ
きおぬい人をわす
後冷泉院時成
二月上申日
乃春日乃松とよ
藤原範水朝臣

某も物成世は
宮身合せせ
春日六杵也
年三月皇成
乃乃石女の
さういふ
春日の天照太
乃石松物り
國家を譲り
さういふ
し乃わられ
津の段提河
母子を
の國後乃
はねより

乃わらうる
あめりさういふ
釋教
山階寺乃
よす待つる
し乃わられ
くわれあ
前律師
はねより
し乃わられ

法華經序品云佛此夜
滅度如薪盡火滅也
多るる薪を梅檀の
燭よりうつて表すこ
いふれハこころの月の
涅槃經序品第一曰
二月十五日臨涅槃時
會疏 仲春之時用表
中道月滿之時用表
圓常以仲春滿月
之日表中道圓明之
法云猶師子吼品之四
番よりうたへたとて多し
よかりし心み疏の心
ましくさるる

二月十五日乃長中をうり
伊勢大補のちりまはり
り
宗範法師
いふれこころの月の
さるる
伊勢大補
母をてと月之れあこ
何れやそやそをひん
二月十五日乃何く
よ大江依るる

母をてと力か
けあも佛を月
つり入我を致く
生乃を周とよ
山乃をよ入み
僧肇法華翻經後記
云佛日西入遺耀將
及東北茲典在縁於
東北汝慎傳弘
又乃心ましく
めさるる
はるるんちりま
はるるんちりま
はるるんちりま
塵乃けらうりも拂

よみ人
山乃をよ入み
あこりハ
太皇太后宮東ニ
乃此を清堂
乃此を清堂
伊勢大補
けりま
のりま
懺法
懺法

かゝるものありき。

やへきくに蓮乃露

佛のなりし蓮乃露

とく九品乃蓮の宗

五部大衆經 華嚴經

六十卷 大集經 五卷

大品般若經 卅卷 法華

經八卷 大般涅槃經 卅

如來時乃説之如後曇

とく同防内侍乃とく小菊とくい
侍りしよとくせし侍りしよ

女乳母

やへきくよとくしれ露をよきとく
このまよきとくしれ

太皇太后宮五部 大衆經 供事乃せ

とくせ侍りしよ 法華經より侍りしよ

日よ子侍りしよ 康濟王母 太皇太后宮女

はきかきよとくしれ乃花よとく露乃
やとくしれ乃とくしれ

鉢華時一現 乃て金か

心ましく嘆きしよとくしれ

故土御門右大臣 卅房云

具平親皇子 保安二年

十月十二日薨 八十歳

品よ長者乃とくしれ

牛車とくしれとくしれ

彼子とくしれとくしれ

とくしれとくしれ

とくしれとくしれ

とくしれとくしれ

とくしれとくしれ

とくしれとくしれ

とくしれとくしれ

とくしれとくしれ

とくしれとくしれ

とくしれとくしれ

とくしれとくしれ

とくしれとくしれ

とくしれとくしれ

とくしれとくしれ

とくしれとくしれ

とくしれとくしれ

とくしれとくしれ

とくしれとくしれ

とくしれとくしれ

とくしれとくしれ

とくしれとくしれ

のくくく一味のちの薬草論品は一味雨潤於人華とあるは重蒙折
云釋迦梨一音よりときまのくも衆生ハおもはひくともわらうも
西ハ一味あれともおもハ種こよもあひをうもくくくくこれハ
笑といつとよめ

月輪觀 元亨釋書元
超傳云嘗依月輪觀其
胸常冷漿

月輪觀とよめ

僧都覺超 巨勢父泉列
大鳥郡人

月のくに心をけり

月乃より心をけり 心は下り

いそ月輪を觀て
覺超乃心は成く然て
こころ可和と口訣と

維摩經乃十喻乃中よの身ハ芭
蕉乃こころよりよめ

この身ハ維摩經亦使
品云是身如芭蕉中
無有堅

前大納言の記

月乃けりまのやまのさめくまののちめ

月乃けりまのやまの

よまのさめくまののちめ

芭蕉の月ハ
殘起く詩葉大法林

同喻乃中よの身ハ月のこころ

同喻乃中よの身ハ
維摩經亦觀衆生品中

はねまぬ我身ハ乃月ちれハ

喻云如智者見水中月
菩薩觀衆生為義此

世りすまのけんこころあひハ

はねまぬわらわら
世りすまのけんこころあひハ

三思唯一心 伊勢大納言
伊勢中將

ちる花もあまの

ちる花もあまのこころあひハ

花嚴經三思唯一心
外無別法の心惜心

こころ乃あれおとやそく

こころ乃あれおとやそく

化城喻品 赤深衛門

こころ乃あれおとやそく

こころ乃あれおとやそく

わさ乃やりの化珠と

まこと乃子ちをいつてきり

よかり法華經化城喻

康賢王母

品云寶殿在迦提非

ちらとを子あるうらまへやあせ

實我化作再この心の

おりのわさ乃やりの化珠と

寶の山よ入人のを爲

峻難きはれ中摩上

已ゆんとりよなるひ

六百牙子品 け品

六百牙子品 赤澤水

人かちふ二珠とほりてうごよやあせはまは秘ありまの寶と

ち一ととせやくはよ至寶山天常よまの珠乃熱せざる者おきり

小をを流し珠を熱せりめはは美よとせやく各くまの寶光

出よとせやくとせやくとせやくとせやくとせやくとせやく

今ちととせやくとせやくとせやくとせやくとせやくとせやく

よある上るし下るの化珠とやとせやくとせやくとせやくとせやく

とありてまをとせやくとせやくとせやくとせやくとせやく

六百牙子品 け品

六百牙子品 赤澤水

六百牙子品 赤澤水

六百牙子品 赤澤水

六百牙子品 赤澤水

六百牙子品 赤澤水

六百牙子品 赤澤水

六百牙子品 赤澤水

六百牙子品 赤澤水

六百牙子品 赤澤水

法華經四の巻六百羅

漢成佛乃記別と

けくまをよとせやくとせやくとせやくとせやくとせやく

同く普明如來と号と

受記品とよかり

六百牙子品 赤澤水

六百牙子品 赤澤水

六百牙子品 赤澤水

六百牙子品 赤澤水

六百牙子品 赤澤水

六百牙子品 赤澤水

六百牙子品 赤澤水

六百牙子品 赤澤水

如来菩薩品とつりて中乃又於阿僧祇劫常在虛警内と有り又我
常住於此以諸神通力令顛倒衆生雖近而不見と有り此の常有りま
せりも衆生情念厭息の心のやうくして恭敬無畏の心を起えんぬ
事とありとあり

普門品 普門ありと

世とすくふらうらひはれりつらん

義の也観世音菩薩のありて一切の法をわたりて妙智の

あまのまじり人を人へとせぬえ

とありて衆生を利益

人の何れを布施ををりたる中に

志のふたは観世音菩薩

あまのまじり人を人へとせぬえ

白大淨種々の天に

はの必りあまのまじり人を人へとせぬえ

後六 十

乃義とてはありとあり

あまのまじり人を人へとせぬえ

一門をたれはあり

乃義とてはありとあり

出字乃い一と性空上人 從五位持善根子永延二年乙巳化人きりて揚塵

乃出字山の靈徳山の二峯也そま房者菩提心と教へる根淨なること

志せくせえいひり菴をいひちとまく空寂と号す元亨釋書委

該孤經傳者一と入のふりて布施と元亨釋書空於山中每來三九月

轉妙此為引民之福と又所止之處緇白成市施利如常と是也

は乃のふれも小なり 諸法實相をいひのり佛法ありとらん

花ひらむれとて維尸經云至博奕戲戲輒以度入のふのやむ花

誹諧奇

誹諧史記滑稽傳注

乃乃ねれまをりつとせぬえ

姓察云滑稽猶誹諧

と廣記の誹諧部

三日乃れ北をちわく
り密乃二月乃ち何れ

つらたれ北をちわく
わつりー
也波野々菴蘆子と
橋とよみくもぬ
母乃れはむすめつ
ひのなをさし
和名菴蘆子せう
りよことみまつね

たり女乃ちやさし
とつ何れまうつ
つらたれ北をちわく
三日乃れ北をちわく
くもよめる 菴原実言朝臣
乃れ北をちわく
まけつ
みき月をさし
和名武部
おつとみまつね

後北 十一

皆おれし
月をさし
公事根原有太後乃れ
世寺園日記より
補す
ひのな 菴和名
茶也
中乃れかす
東のえり
一こいひ
乃れをさし
ささよよめり
尋あよひ
りちゆ

ちわく
ひのな
ぬん
しり
七月
ち乃れかす
かーや
小一東院入道前太政大臣のかつ
あ
と
ち乃れかす

わかちりつゝあきま
目と縁はうつくしき
こど評と縁と對し
まひり
おらひいかにをばな
なやあらうとてを
まふんやとてを
とばしたる(縁)

よきあかりにあり
おらひいかにをばな
おらひいかにをばな
あひあひにあり
伊勢物語よなをい

わかちりつゝあきま

まいあやうきうきうのありぬれ

お茶乃ちりそくしきまも同乃

く吹ゆれハ増基法師

おちいゆるをばなありてはるおを

うそはるはるまはるまはる

人乃まはるまはるまはる

まはるまはるまはる

おらひいかにをばな

おらひいかにをばな

つたふしあき火をう
てまはる火とて
とまはる火とて
やわをていりあり
やわをていりあり
まはるまはるまはる
おらひいかにをばな
おらひいかにをばな
おらひいかにをばな
師のあきまはる
おらひいかにをばな
おらひいかにをばな

難きこと

天台座主源心

やわをていりあり

うそはるはるまはる

法師乃麻とありてはるまはる

まはる

和泉式部

まはるまはるまはる

おらひいかにをばな

おらひいかにをばな

まはるまはるまはる

まはるまはるまはる

人をばかちりてあはれ

るのよき時つとてあはれ

すなはちてし

わかれてもあはれ

月あかりにこゝろ

あはれ新しき

人よあはれ

すのあはれ

あはれ

このあはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

七月をうり月乃あはれ

女のよき時つとてあはれ

か將故原義孝

わかれてもあはれ

月あかりにこゝろ

三條院沖時うり方このあはれ

侍り人よあはれ

あはれ

小大君

今ら志をやはらげ

染 十四

世やとらかり

也邪

とらかり

とらかり

とらかり

とらかり

とらかり

とらかり

とらかり

とらかり

とらかり

とらかり

とらかり

とらかり

とらかり

うり

人乃草合せ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

入道

あはれ

あはれ

あはれ

おもしろいもの
 人なかりとるまじき
 よいものよとるまじき
 とるまじきもの
 とるまじきもの
 とるまじきもの
 とるまじきもの
 とるまじきもの

ますまの 徳の 大納言道徳母
 おもしろいもの
 やさしいもの
 人なかりとるまじき
 徳のよめる 徳の法師
 ますまの 徳の
 とるまじきもの
 めいせん
 女乃ちれ
 大納言道徳母

後北
 十六

たけのこ
 乳のまじき
 ろくろ
 家乃乳母
 くまの
 也匡衡
 儒業乃家
 匡衡

たけのこ
 ますまの
 はうせ乃
 西
 赤染
 匡衡書
 匡衡
 ますまの
 匡衡

自延寶八年二月廿五日 壬申年五月廿日 註解早

素

按李三

長承三年正月十九日禮部納言之自等奉書年
件本與書云寬治元年九月十五日為披露世間
重申下濟本校之先是在世本相遠奇三百餘首
不可信用件本其由與書目錄序 通後

寬元四年三月日以教亞相本又校之 五判

文應二年二月廿二日尚書省門之本出字早公朔

于時寬正二年辛巳二月晦日書字了法眼點慶

此集之字之謬多端之系以較本比校之僻書相
遠之處改正之雖或猶漏脫不足信用者凡

寬正二載南台日記之

七判

